

CLIPPEDIMAGE= JP403168682A
PAT-NO: JP403168682A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03168682 A
TITLE: METHOD FOR PLANNING DISPOSITION OF BUILDING

PUBN-DATE: July 22, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

ARAI, SATORU

WADA, KEIGO

MASUDA, TOSHIYUKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

NATL HOUSE IND CO LTD

N/A

APPL-NO: JP01308756

APPL-DATE: November 28, 1989

INT-CL_(IPC): G09B025/04

US-CL-CURRENT: 434/72

ABSTRACT:

PURPOSE: To smooth the conferring between a designer and a landowner by allowing the proposing of the various disposition plans of buildings corresponding to a site as three-dimensional models at a construction site.

CONSTITUTION: A site drawing 2 is imposed on a base plate 1 and a drawing holding body 3 is pressed onto the drawing 2. Either one side of the plate 1 or holding body 3 is formed of a magnet and the other side of the either thereof is formed of a magnetic material. While the drawing 2 is held on the plate 1, the models 4 having the magnets or magnetic materials of buildings, vehicles, trees, etc., are imposed on the drawing 2 and are magnetized to the plate 1. The disposition plan of the buildings is proposed in front of the landowner and the conferring with the landowner is executed by moving the various models on the drawing 2. Thus, the conferring between the designer and the landowner is smoothly executed.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報(A) 平3-168682

⑤Int.Cl.⁵
G 09 B 25/04識別記号 庁内整理番号
6763-2C

④公開 平成3年(1991)7月22日

審査請求 有 請求項の数 2 (全6頁)

④発明の名称 建築の配置プランニング方法

②特 願 平1-308756

②出 願 平1(1989)11月28日

⑦発明者 荒井 覚 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番12号 ナショナル住宅産業株式会社内
 ⑦発明者 和田 敬悟 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番12号 ナショナル住宅産業株式会社内
 ⑦発明者 増田 俊之 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番12号 ナショナル住宅産業株式会社内
 ⑦出願人 ナショナル住宅産業株式会社 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番12号
 ⑦代理人 弁理士 石田 長七 外2名

明 細 書

【従来の技術】

1. 発明の名称

建築の配置プランニング方法

2. 特許請求の範囲

(1) ベース盤の上に敷地図面を載せると共に敷地図面の上に図面保持体を当ててベース盤乃至図面保持体のいずれか一方側を磁石とすると共にいずれか他方側を磁性体として両者を磁着し、このようにしてベース盤の上に敷地図面を保持した状態で敷地図面の上に建物や車や樹木等の磁石乃至磁性体を備えた模型を載せてベース盤に磁着させることを特徴とする建築の配置プランニング方法。

(2) 模型が立体模型であることを特徴とする請求項1記載の建築の配置プランニング方法。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、敷地図面の上に建物や車や樹木等の位置関係を簡単に表すための建築の配置プランニング方法に関する。

建築業者のセールス活動において、空き地を持っている地主に対して、戸建住宅や集合住宅を建てるように勧誘する場合、従来にあつては、セールスの過程で設計者に設計してもらった該当敷地に対応した提案すべき平面プランを描いた図面を作成し、これをセールスマンが地主に見せて説明するようにしていた。ところが、地主とセールスマンとの話しの過程で建物の位置を変えたり、あるいは駐車場の位置を変えたり、建物の棟数や駐車場の広さを変えたり、樹木の位置を変えた話しがした場合、その場では対応できず、再び、設計者の処に地主との話しをフィードバックして新たに提案すべき平面プランを作成し、再度地主の処に持参して説明するというようにしていた。

また、従来にあつては、平面図では建築に対して素人である地主が具体的な空間のイメージが描けないので、パースと称する斜視図を作成してこれを地主に見せていた。更に、プランがより具体化するとそのつど建物の立体模型を作成してこれ

を敷地を描いたプレートの上に接着剤で固定していた。

【発明が解決しようとする課題】

ところが、上記のような従来例にあっては、何度も設計者に平面プランを描いた図面を作成してもらって、そのつど地主の処に持って行って説明しなければならず、手間がかかり、特に、該当敷地を見ながら屋外で地主の意見を聞きながらその都度配置プランを提供するということができなかった。

また、従来にあっては、立体的な提案にしてもベースの場合には今一つ地主に具体化イメージが理解してもらいにくく、また、立体模型の場合、従来にあっては、そのつど特別に製作するので製作費が高かつき、建物の配置を変更したり、棟数を変えたりした場合にはせっかく高い金額をかけて作成した立体模型が無駄になるという問題があった。

本発明は上記した従来例の問題点に鑑みて発明したものであって、その目的とするところは、該

しかして、地主の目の前でベース盤1の上に該当敷地の敷地図面2を載せてこの敷地図面2の上からベース盤1に図面保持体3を磁着させ、この状態で敷地図面2の上に模型4を載せてベース盤1に磁着させて建物の配置プランを提案するものであり、その場で地主の意見を聞きながら、敷地図面2の上で建物や樹木や駐車場等の種々の模型4を移動させて配置を変えて種々の配置プランをそのつど提案するものである。

【実施例】

本発明を以下添付図面に示す実施例に基づいて詳述する。

ベース盤1は雑番部を介して折り畳み自在となっており、添付図面の実施例では2つ折りとなっているが、3つ折り以上に折り畳み自在となってもよい。ベース盤1は磁石が設けてあるかまたは鉄板のような磁性体が設けてあるかいずれかの構造となっており、鉄板のような磁性体を設けてある場合には表面の任意の位置に磁石を磁着できるようになっており、磁石を設けてある場合には

当敷地に対応した建物の種々の配置プランを地主の家やあるいは建築すべき現場においてセールスマンが直接地主の意見を聞きながら提案でき、また、地主に対して立体模型として種々の配置プランを提案でき、立体模型を何度も使用できてコストも安くなる建築の配置プランニング方法を提供するにある。

【課題を解決するための手段】

本発明の建築の配置プランニング方法は、ベース盤1の上に敷地図面2を載せると共に敷地図面2の上に図面保持体3を当ててベース盤1乃至図面保持体3のいずれか一方側を磁石とすると共にいずれか他方側を磁性体として両者を磁着し、このようにしてベース盤1の上に敷地図面2を保持した状態で敷地図面2の上に建物や車や樹木等の磁石乃至磁性体を備えた模型4を載せてベース盤1に磁着させることを特徴とするものである。

そして、模型4として立体模型を使用すると好ましい。

【作用】

表面に鉄材等の磁性体を磁着できるようになっている。このベース盤1の大きさは例えば一枚がA1サイズのを2枚折り畳み自在に雑番部により連結して構成したものであり、第4図に示すようなケース6に入れて保管したり、持ち運んだりするものである。

模型4としては例えば第3図に示すような複数種の建物模型4a、自動車模型4b、駐車場模型4c、種々の樹木模型4d、プール模型4e、自転車置き場模型4f、噴水模型4g、ゲート模型4h、ネーム等の表示構造物模型4i、遊び場模型4j、人間模型4k、外部の建物等を表示する外部建物模型4m等種々の模型があり、これらの模型4は立体模型4Aと平面模型4Bとがある。また、これらの模型4の下面側には磁石または磁性体が設けてある。つまり、ベース盤1が磁石の場合には模型4に鉄のような磁性体が設けてあり、ベース盤1が鉄板のような磁性体の場合には模型4に磁石が設けてあって、ベース盤1の任意の位置に模型4を磁着できるようになっている。上記模型4

は所定の縮尺、例えば実物の1/100の縮尺となっている。

上記種々の模型4は例えば第5図、第6図に示すような収納箱7内に収納しておくものである。収納箱7は前方が開口しており、内部に上下に複数段に棚板受け8が設けてある。棚板受け8には前方に引き出し自在に棚板9が載置してある。棚板9は磁石または磁性体を設けてあって、模型4を棚板9に載せて磁着できるようになっている。したがって、棚板9の上に模型4を磁着させた状態で収納することで、収納箱7の上部に設けた握持部10を手で持って移動しても模型4が移動したりすることなく、確実な保持された状態で運ぶことができるようになっている。収納箱7内には更に引き出し11が引き出し自在に内装してあり、この引き出し11の中には第7図に示すようなスケール12、マグネット13、ピンセット14、筆記具15、法規定規16、支持棒17、人工太陽として使用するペンライト18等の種々の付属部品が収納できるようになっている。そして、収

ス盤1に磁着し、このようにしてベース盤1の上に敷地図面2を保持した状態で敷地図面2の上に建物や車や樹木等の磁石乃至磁性体を備えた模型4を載せてベース盤1に磁着させ、配置プランを提案するものである。そして、提案した配置プランに基づいて種々の説明及び検討をするのであるが、この際、建物の種類を変える場合、建物の向きや配置を変える場合、棟数を増減する場合、あるいは、駐車場、自転車置き場、樹木等の位置変更や増減をする場合等、地主の目の前で敷地図面2の上で模型4を動かして磁着させ、提案すべき種々の配置プランをその場で提供するものである。ここで、敷地図面2に第1図(b)に示すように予めモデルとなる最初の提案の平面図2aを記載しておき、最初は第1図(c)のようにこの平面図2aの上に該当すべき模型3を載せて磁着させて最初の配置プランの提案をし、これを元にして、その場で例えば第1図(d)のように模型3の位置等を一部あるいは全面的に変更したりすると、最初のプランとの変化もわかりより密度の濃い検討が可

納箱7の前開口の両側縁には縦溝19が設けてあって蓋20を上方から落とし込んで嵌め込むことができるようになっている(したがって蓋20は上方に引き上げて取り外すものである)。

図面保持体3はベース盤1に磁着できるように磁石または磁性体により形成してあり、実施例では細巾の長尺の帯状をしているが、必ずしもこれにのみ限定されず、短いものあるいは、円形その他の任意の形状をしていてもよい。この図面保持体3はベース盤1に磁着させた状態でベース盤1と共にケース6に収納しておく。

しかして、上記のようなベース盤1と模型4と図面保持体3とを持って地主(顧客)を訪問し(つまり、収納箱7とケース6とに収納した状態で訪問し)、訪問先で地主の目の前で、ベース盤1と模型4と図面保持体3等を出して該当する敷地の図面を描いた敷地図面2(この敷地図面2は模型4と同じ縮尺で描いてある)をベース盤1の上に載せ、磁石または磁性体よりなる図面保持体3を敷地図面2の上に当てて敷地図面2を介してベー

盤となる。この場合、最初の平面図には北側斜線制限、道路斜線制限、有効採光制限等による位置制限を考慮して図面を描いておくため、模型3の位置を変える場合もこれらの下図である平面図を参考にして模型3の位置のおおまかな設定が可能となる。

なお、模型4として立体模型4Aにより配置プランを提案するのが好ましいが、建物の間取りを提案表示する場合や、提案の最初におけるラフ設計の提案として平面模型のみを磁着して提案するようにしてもよい。第2図には建物の間取りを示した平面模型4Bや駐車場を示す平面模型4Bを敷地図面2に配置して提案している実施例が示してある。第2図においては(a)(b)(c)の順序で配置プランを提案する。

勿論、立体模型4Aと平面模型4Bとを組み合わせ使用してもよく、平面模型4Bで平面的な提案をした後、これに基づいてその場で立体模型4Aにより立体的な提案をするようにしてもよいものである。

また、配置プランにつき説明する場合には支持
17を持って模型4を指し示しながら説明する
ことでより効果的な説明が可能となる。また、ペ
ンライト18を人工太陽に見立てて模型4の影等
を現出し、日照等をその場で説明することも可能
である。

〔発明の効果〕

本発明にあっては、叙述のように、ベース盤の
上に敷地図面を載せると共に敷地図面の上に図面
保持体を当ててベース盤乃至図面保持体のいずれ
か一方側を磁石とすると共にいずれか他方側を磁
性体として両者を磁着し、このようにしてベース
盤の上に敷地図面を保持した状態で敷地図面の上
に建物や車や樹木等の磁石乃至磁性体を備えた模
型を載せてベース盤に磁着させるので、地主の意
見を聞きながら、敷地図面の上で建物や樹木や駐
車場等の種々の模型を移動させて配置を変えて種
々の配置プランをそのつと提案することができ、
従来のようにいちいち設計者に地主との協議の結
果を持ち帰って再度図面を作図して再び地主の地

に持って行って提案するというようなことが省略
できて、時間及び手間を大幅に短縮できて、地主
との意志の疎通も良くなるという利点がある。ま
た、ベース盤の上に敷地図面を介して模型を磁着
するので、模型が敷地図面の上で動かず、ベース
盤を傾けたり、あるいは振動が加わっても正確に
表示できるものであり、また、敷地図面と模型と
の配置関係も正確に地主に理解してもらえると
いう利点がある。

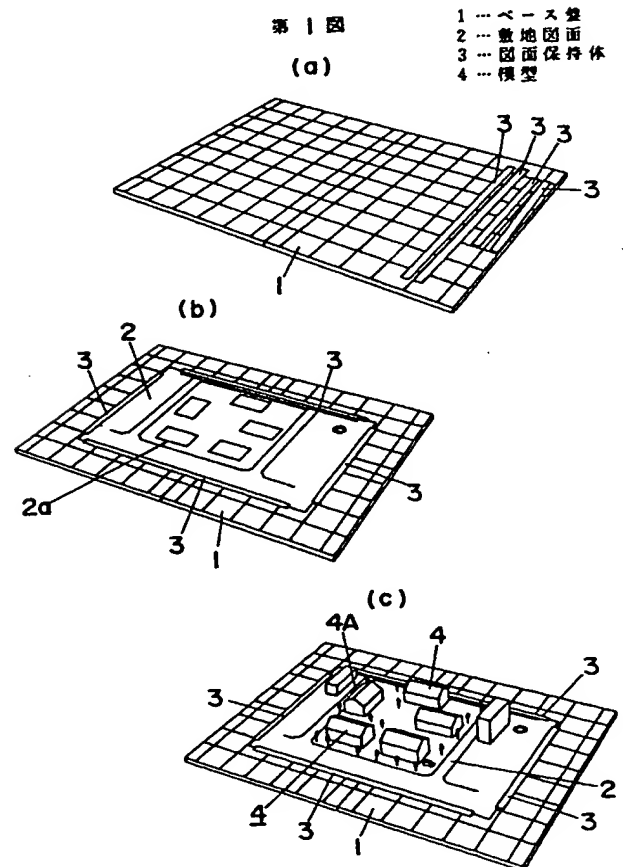
また、請求項2記載の発明にあっては、模型が
立体模型であるため、素人である地主に対して敷
地との関係で建物や駐車場や樹木その他の位置関
係と形状が立体感を持った具体的なイメージとし
て認識してもらえるものであり、しかも、その場
で他のプランの提案として立体模型の位置を変え
ても他のプランがすぐに立体感を持った具体的な
イメージとして認識してもらえると利点がある。

4. 図面の簡単な説明

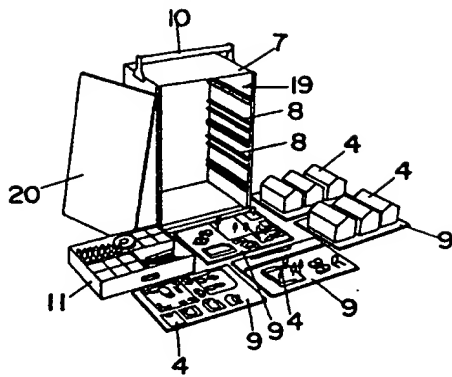
第1図(a)(b)(c)(d)は本発明の一実施例の順序

を示す説明図、第2図(a)(b)(c)は同上の他の実
施例の順序を示す説明図、第3図は模型の各例を
示す斜視図、第4図はベース盤とケースを示す斜
視図、第5図は同上の収納箱の蓋を開いている状
態の斜視図、第6図は同上の棚板を出した状態の
斜視図、第7図は各種の付属部品の斜視図であっ
て、1はベース盤、2は敷地図面、3は図面保持
体、4は模型である。

代理人 弁理士 石 田 長 七



第 6 図



第 7 図

